令和８年度中学生議会会議録

日　　時　　令和８年８月５日（水）　　開会時間　午後　１時００分
閉会時間　午後　２時３７分

場　　所　　加賀市役所　議場

議　　長
中学生議長　　久保出　柑　生

質問者

中学生議員	島田愛瑠	中学生議員	能美大翔
中学生議員	東谷伊織	中学生議員	大河原すず
中学生議員	深田友宏	中学生議員	髙地　凛
中学生議員	北出大翔	中学生議員	銭丸京汰
中学生議員	五所村メイ	中学生議員	町出翔希
中学生議員	髙﨑克吉		

補佐役議員

議長	山口忠志	副議長（司会）	中川敬雄
議員	植木陽祐	議員	髙橋菜見子
議員	福永哲也	議員	上野清隆
議員	若林　高	議員	荒谷啓一
議員	一色眞一	議員	東野真樹
議員	南出貞子	議員	上田朋和
議員	辰川志郎	議員	稲垣清也
議員	中谷喜英	議員	林　直史

議員	林　茂信	議員	林　俊昭

出席説明員

市長	山田利明	副市長	永田祥二
会計管理者兼 会計課長	重谷秋穂	総務部長	篠田和良
危機対策部長	奥野俊雄	市民生活部長	池端綾乃
健康福祉部長	北口未知子	産業部長	岡田隆之
建設部長	西山昌明	上下水道部長	宮崎勝喜
秘書課長	山田智栄子	財政課長	平田圭範
病院事業局 事業管理部長兼 医療センター 管理部長兼 加賀看護学校 事務局長	水井勇一	教育委員会 教育長	松本向貴
教育委員会 事務局長	小林　湧	監査委員 事務局長	渡部哲也
消防長	大和克幸		

欠席説明委員

代表監査委員	浅井廣史

会　議

開会挨拶

中学生議会

講評

会　　議

開　会　挨　拶

○中川副議長　皆さん、こんにちは。

本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻にはまだ早いですけれども、皆様、お集まりのようですので、始めさせていただきたいと思います。

ただいまより、令和８年度中学生議会を開会いたします。

副議長の中川でございます。本日の司会進行をさせていただきます。

開会に先立ちまして、山口議長が御挨拶を申し上げます。

山口議長、よろしくお願いいたします。

○山口議長　加賀市議会議長をしております山口でございます。

中学生議会に参加の皆様方、夏休みの大変貴重な時間にも関わらず、引率の先生も御参加をいただきましてありがとうございます。そして、傍聴にはたくさんの方がお越しいただいております。ありがとうございます。市長をはじめ当局の皆様方、議員各位におかれましても、御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

冒頭に、７月28日に発災いたしました令和８年熊本地震、貴い命を奪われた方々に心より御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。あわせて、被災地において、この猛暑、酷暑の中に、支援活動に御尽力いただいている方々に深く敬意を表するとともに、一日も早い復旧復興をお祈りしたいと思います。

それでは、中学生議会ですが、日頃、皆さんが加賀市に対して抱いている疑問や質問、意見を、当局に対して直接質問、提案できる貴重な機会であります。我々議会にとっても、将来の加賀市を担う皆さんが政治に対して大きな関心を持っていただけることは、大変ありがたいことであり、この中学生議会は貴重な機会であると考えております。

改めて、市長及び教育長をはじめとした当局の皆様に、本日の開催に当たり、御協力をいただきましたことに御礼と感謝を申し上げるとともに、中学生に対する前向きな答弁も重ねてお願いしたいと思います。

それでは、本日の中学生議会が、皆様方にとって充実したものになり、また、加賀市のよりよい未来へとつながっていくことを心から期待をして、冒頭の御挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

中　学　生　議　会

○議長（久保出柑生君）　ただいまから加賀市中学生議会を開会いたします。

本日、中学生議会議長を務めます山代中学校３年、久保出柑生です。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議を開きます。

私たちが大人になったとき、加賀市はどんな魅力的な町になっているでしょうか。10年後、20年後の未来がもっと楽しくなるような、中学生ならではの新しいアイデアを込めて、加賀市政に対する一般質問を行います。

通告がありましたので、順次発言を許します。

島田愛瑠君。

○島田愛瑠君　東和中学校３年、島田愛瑠です。

１番になったので、みんなに元気を与えられるように頑張ります。

新しい遊び場について質問します。

私は、今の加賀市には中学生などの子供が自転車や徒歩で安全に行けて、気軽に遊んだり運動したりできる場所が少ないと感じています。私だけでなく、クラスの友達に聞いたら、約８割の人が造ってほしいと言っていました。そのような思いに応えるため、公園やサイクリングコース、屋内でスポーツや遊びができる施設を増やすことを提案します。

例えば、私が考える公園には、最近少なくなっているジャングルジムなどの遊具をたくさん設けて、誰でも使えて、野球やサッカーができるような多目的グラウンドを整備します。そうすれば、子供たちが放課後や休日に体を動かす機会が増えます。また、他の学校の生徒と自然に交流することができ、新しい友達をつくるきっかけになります。

サイクリングコースについては、柴山潟周辺の道路を整備することで、美しい自然や景色を楽しみながら自転車に乗ることができると思います。また、市民が自転車を利用する機会も増えます。健康づくりだけでなく、車の利用が減ることで、環境にも優しいまちづくりにつながると考えます。

さらに、クラス内で一番造ってほしいという意見が多かった屋内施設については、体育館やボルダリング、アスレチックなど、かがにこにこパークの大人バージョンのような施設を造ってはどうかと考えます。そうすることで、雨や雪の日、暑い日でも天候に関係なく、若者が楽しんで利用する施設ができると思います。また、加賀市だけでなく、県内や近隣の県からも多くの人が訪れるようになり、その結果、お店や飲食店の利用者も増え、加賀市の活性化にもつながると考えます。

このように、公園やサイクリングコース、屋内施設を整備することは、子供たちが健康に成長できる環境づくりだけでなく、地域のにぎわいや観光の発展にも役立つと考えます。私のクラスのみんなが望んでいるような施設を増やしてみてはどうかと考えますが、ぜひ市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　答弁に先立ちまして、私のほうからも、先般の熊本地震によりお亡くなりになった方に御冥福をお祈りするとともに、被災された方も一刻も早くふだんの生活に戻られることを御祈念したいと思います。

あわせて、この暑さの中で、命が助かった方も、ぜひ二次被害に遭うことがないように、

そのような救助をしていかなければいけないと思っておりますので、またそのような政策を期待したいと思います。

また、この加賀市においても、いつあのような地震が起こるか分からないということから、地震に強い、災害に強い、そのような市をつくっていかなければいけない、町をつくっていかなければいけないと、改めて感じた次第であります。

それでは、答弁をさせていただきます。

では、今、質問をしていただいた島田君に答弁をいたします。

新しい遊び場についてお答えいたします。

初めに、公園についてですが、現在、市内には106か所の公園があり、そのうち41か所におきまして、ブランコなどの遊具を設置しており、平成29年度より順次遊具の更新を進めているところです。

市内において、大きな面積を有するグラウンドの確保は難しい状況ですが、レクリエーションなどに利用できる多目的な広場を備えた施設は数多くありますので、これら既存の公園施設を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

次に、サイクリングコースについてですが、御提案にありました柴山潟は、穏やかな湖面と雄大な白山のコントラストが美しい風光明媚な景勝地であり、サイクリングにも大変適した場所であります。湖畔を周遊する道路は、加賀市自転車ネットワーク路線に位置づけられており、現在、路肩への路面標示の設置など、ルート整備に順次取り組んでいるところであります。

さらに、市内には、加賀四湯いでゆルートや、ナショナルサイクルルートに国から指定されたいしかわ里山里海サイクリングルートなど、充実したサイクリングルートがそろっております。まずは、こうした既存のルートを御活用いただき、本市の豊かな自然と文化を肌で体感していただければ幸いです。

また、こうした魅力的なルートや周辺の情報を、より多くの方々に広く知っていただくため、今後は、現地への案内看板の設置やＳＮＳ等を効果的に活用した積極的な情報発信に努めてまいります。

最後に、屋内施設についてですが、天候に関係なく思い切り体を動かせる場所が欲しい、かがにこにこパークの大人バージョンを造りたいとの御提案は、子供たちの健やかな成長環境という観点からも、非常に意義が深く、大変魅力的なアイデアであると深く共感するところであります。一方で、新しく大規模な施設をゼロから建設するとなりますと、膨大な整備費や将来的な維持管理費を要するため、直ちに新設することは現実的には極めて難しい状況であります。

しかしながら、このすばらしいアイデアのエッセンスは、視点として取り入れるべきであると考えております。例えば、今後、既存の公共施設が役目を終えた際には、リノベーションによって、コストを抑制しながら、魅力的な屋内スペースへと生まれ変わらせることがで

きないかなどについて検討してまいります。

あわせて、市においては、現在、子供主体の学びの場を広げるという目的の下、中学生の皆さんの地域クラブや部活動など、これからの放課後の在り方、グランドデザインについて議論を進めておりますけれども、その中では、皆さんの居場所も主要なキーワードの１つとなっております。新しい大規模な施設を建設することは困難であっても、皆さんが生き生きと活動できる場の確保について、市としても引き続き検討してまいります。

今後とも、どのような放課後を望むのかなどについて、同世代の皆さんの御意見もお寄せいただければ幸いです。島田中学生議会議員をはじめ、クラスの皆さんからいただきました熱い情熱と具体的なアイデアを、これからのまちづくりに大いに生かし、次の時代を担う世代が笑顔で生き生きと成長できる環境を、皆さんとともにしっかりとつくってまいります。

○議長（久保出柑生君）　島田愛瑠君。

○島田愛瑠君　山田市長、ぜひ御検討よろしくお願いします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　島田愛瑠君の質問及び答弁は終わりました。

能美大翔君。

○能美大翔君　錦城中学校２年、能美大翔です。

加賀市のよさを活かして！について質問します。

今年度創立80周年を迎える錦城中学校の能美大翔です。

自然、温泉、新幹線、三拍子そろったすばらしい加賀市の未来のために頑張ってきなさいと、校長先生から叱咤激励を受けてきました。初めての体験でとても緊張していますが、一生懸命質問させていただきます。よろしくお願いします。

加賀市は、ＳＤＧｓ未来都市やデジタル田園健康特区に認定され、ドローンやＡＩなどの先端技術を活用した企業が集まったり、実証実験を積極的に推進したりと、国内外から高い注目を集めていることを知りました。調べれば調べるほど、加賀市にはいいところがあり、また、それが強みであり、誇らしいと感じました。その一方で、加賀市のよさや強みを生かし切れていないのではないかとも思いました。

加賀市ならではの四季折々の自然と、片山津、山代、山中の各温泉、江戸時代に栄えた大聖寺十万石の城下町、日本海交易で巨万の富を築いた北前船などの歴史と、最先端テクノロジーを組み合わせて利用しないのは、もったいないと思います。

そこで、私は、ＪＡＸＡのベンチャー企業、ｅｍｂｌｅｍ株式会社の空を飛ぶ技術を使ったアクティビティーを活用すればいいと考えました。天候に左右されますが、天気のいい日の空の観光は、考えただけでもわくわくします。さらに、温泉に入って、加賀ならではの食材を使ったおいしい料理を食べることができれば、ほかの町では得られない最高のひとときを味わうことができると思います。

また、観光だけではなく、救急搬送や救助活動、宅配をドローンなどで行うことができれ

ば、高齢者を中心に、加賀市民にとって有益であると考えます。

さらに、自動運転バスの運行はどうでしょうか。既に福井県永平寺町では、電磁誘導線を敷設して、レベル４自動運転バスを３年間運行した事例があり、加賀市でも実証実験をしたことがあると知りました。障害物の回避など、複雑な交通環境への対応や積雪への課題が残ったようです。

しかし、現在、加賀市では、人口減少、空き家増加が進んでいて、それらを逆手に取り、今から計画的に自動運転ができる道路整備やまちづくりができると思います。また、自動運転技術を除雪作業にも利用すれば、担い手不足や事故なども減ると思います。将来、人口が今よりも少なくなり、担い手不足や高齢化社会の問題を抱えるとされる加賀市ですが、それらに迅速に対応できるのではないでしょうか。そして、加賀市のよさを生かした未来型の観光と交通で採算が取れる持続可能な地域振興が図れると考えます。

私の考えに対し、ぜひ市の意見をお聞かせください。また、私たち小中学生が大人になった頃の未来の加賀市に向けて、詳しい計画があれば、それも教えてください。

以上です。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　加賀市のよさを生かしたまちづくりと、将来の加賀市に向けた計画についてお答えいたします。

加賀市には、豊かな自然や温泉、伝統文化という特色に加え、ＳＤＧｓ未来都市やデジタル田園健康特区に指定されているという特徴があります。これらの強みや制度を生かし、例えばデジタル田園健康特区として、国や民間事業者と協力しながら、自動運転バスやドローンなどの活用についての実証実験を進めてまいりました。

一方で、こうした強みやデジタル技術が暮らしの中で広く使われ、便利さや効果を感じるところまでは、まだ十分に進んではいないと考えております。

今回の御提案を、これからの本市の夢や希望を広げるための大切なアイデアとして受け止め、実現に向けた可能性や課題を整理しながら、今後のまちづくりに生かしてまいりたいと考えております。

次に、今の中学生の皆さんが大人になる頃の未来の加賀市に向けた計画についてお答えいたします。

本市には、土地や道路などのまちづくりの方向を示す都市計画マスタープランをはじめ、子育てや教育、産業、観光、交通、医療、福祉など、各分野で将来に向けた取組を定めた計画があります。また、市全体のまちづくりの方向性を示す最も基本となる計画として、加賀市総合計画があり、それぞれの分野の計画も、総合計画の考え方に沿ってつくられてきました。

この総合計画は、今年度末で10年間の計画期間を終えることから、現在、４年先の本市の確かな将来像や進むべき方向性を分かりやすく示す新しい加賀市ビジョンの策定を進めてお

ります。このビジョンを通して、次の世代につながるまちづくりの方向性を示し、市民の皆さんがより幸せに暮らすことができる加賀市を築いてまいりたいと考えております。

これからも皆さんが大人になったときに、加賀市で暮らしたい、進学や就職で一度市外に出ても、また戻ってきたいと思えるよう、本市の特色やデジタル技術などを生かしながら、将来に向けた持続可能なまちづくりを進めてまいります。

○議長（久保出柑生君）　能美大翔君。

○能美大翔君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　能美大翔君の質問及び答弁は終わりました。

東谷伊織君。

○東谷伊織君　東和中学校３年、東谷伊織です。

東和中学校全体の思いを伝えるためにここに来ました。

現在、作見地区にある観音様周辺の土地について質問します。

この場所は、加賀温泉駅に近く、多くの人が利用しやすい場所です。このような立地のよい場所が、長い間、今のままなのは、とてももったいないと感じています。また、防犯面や安全面でも心配があります。

そこで、この場所を１万人規模のアリーナとして整備し、アーティストのライブや子供向けヒーローショー、展示会など、今できていないイベントを開催できる場所にしてはいかがでしょうか。

私のクラスでアンケートを取った結果、放課後に遊べる場所が欲しいという生徒が、半数以上の55％いました。

そのため、イベントのないときは、グラウンドとして貸し出すことで、今、遊び場を求めている中学生のためにもなり、一石二鳥だと考えます。市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　観音様の周辺の土地の利用についてお答えいたします。

加賀温泉駅に近い場所が、長い間使われていないことをもったいないと感じる気持ちや、防犯や安全の面を心配する気持ちはとても大切だと思います。

ただ、この土地は、民間の方の所有地なので、土地の使い方、管理は、持ち主が責任を持つことが基本となります。市としても、周りの人たちが安心して暮らせるよう、必要に応じて持ち主へ安全な管理をお願いしております。

また、アリーナを整備して活用するというアイデアは、多くの人が集まり、地域が元気になる、夢のある提案だと思います。

一方で、このような大きな施設は、整備だけではなく、その後の管理や運営にも多額の費用が必要となるため、市では新たな施設を計画する際は、本当に多くの人に利用してもらえるか、市民の皆さんにとって本当によい方法は何なのかをよく考えながら進めております。

現在、市では加賀温泉駅南側を未来型商業エリアとして、子供から大人まで多くの人が集

まり、楽しめる魅力ある場所にしていこうと取り組んでいるところであります。加賀温泉駅前には全天候型広場施設、タカノクリエイト　ソラミ　ガレリアも完成し、イベントの開催や交流の場として活用してまいります。今後もこうした施設や加賀温泉駅周辺の空間を生かしながら、皆さんが安心して過ごし、楽しめる場所づくりに努めてまいります。

今回、御提案いただいたように、自分たちの町をもっとよくしたいと考え、意見を出してくれる若者が増えることを期待しております。

○議長（久保出柑生君）　東谷伊織君。

○東谷伊織君　次に、幼児期の茶道の体験について質問します。

私は、保育園で茶道体験をしたことがあり、とても良い機会で、今でも忘れられない思い出となっています。しかし、小学校以上になると勉強や部活動などで忙しくなり、茶道などの伝統文化に触れる機会はほとんどなくなってしまいました。そのため、時間に比較的余裕のある幼児期に伝統文化を体験することには、大きな価値があると考えます。

そこで、市内全域の保育園・幼稚園・認定こども園で茶道体験を取り入れ、幼児期から日本の伝統文化に親しむ機会を広げてはいかがでしょうか。市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　幼児期の茶道の体験についてお答えいたします。

幼児期に本物の伝統文化や美しいものに触れることは、とても大きな価値があります。それは、五感が刺激されて、豊かな感性や表現力が育つだけではなく、他者への思いやりの心やマナーが身についたり、自分や生まれ育った町に誇りを持てるようになったり、集中力が高まったり、心と体を大きく成長させてくれるからです。

本市では、令和６年に加賀市保育ビジョンを策定し、ゼロ歳から質の高い学びを保障する、創造性を育む保育教育を進めております。加賀市には、全国に誇る温泉、歴史、伝統文化、そして豊かな自然があり、子供たちは日々それらに親しんでおります。

現在、市内には、私立と公立を合わせて26の保育園や認定こども園があり、私立の園では、それぞれの理念や地域性を大切にした探究活動や茶道体験を取り入れ、子供たちの豊かな感性を育んでいる園がございます。

また、公立保育園では、身近な自然や文化を通じて、子供たちのやってみたい、楽しいという興味を出発点とした探究活動を取り入れています。

例えば、茶道体験では、緑の泡が立つお茶の不思議やすてきな着物、和菓子などに引かれた子供たちが、自分たちの手でお茶会をつくり上げた実践例があります。また、散歩中に漂う茶葉の香りに導かれて、茶畑を訪れ、お茶作りを生きがいと語る地域の方々と温かい出会いにつながった事例もあります。こうした身近な体験や地域の人との関わりを通して、郷土への愛着や主体的な学びが育まれています。

市内全ての園で茶道体験を導入することは、それぞれの園の教育方針や子供たちの自主性を尊重する観点から、慎重な検討が必要です。

しかし、幼児期からの体験が生涯の思い出になったという感動は、皆さんのこれからの人生において、自分らしさの土台づくりや大きな自信につながるものだと考えております。これからも全ての子供たちが、加賀市の文化に触れ、心豊かに育っていけるよう、市全体で進めてまいります。

○議長（久保出柑生君）　東谷伊織君。

○東谷伊織君　これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　東谷伊織君の質問及び答弁は終わりました。

大河原すず君。

○大河原すず君　錦城中学校２年、大河原すずです。

加賀市の伝統工芸の後継者不足と需要を高める後継者育成の環境づくりについて質問します。

錦城中学校の２番手を務めます大河原すずです。

私は、未来の加賀市のために質問できることをとてもうれしく思っています。先日の石川県吹奏楽コンクール以上に緊張しており、その内容がうまく伝わるか不安ですが、精いっぱい頑張ります。よろしくお願いします。

私は、未来の加賀市について真っ先に思いついたことが、伝統工芸の後継者不足問題でした。私が説明するまでもありませんが、加賀市には、世界に誇る九谷焼と山中漆器があります。その貴重な伝統工芸について、職人の高齢化と後継者の不足が課題になっていると知りました。技術習得が難しく時間がかかる、生活様式の変化や海外製品の流入により需要が低下し、収入が安定しない、若者の興味関心が低いなど、様々な要因が挙げられます。

また、九谷焼や山中漆器は、地域の人にとっても職人が手がける高価で手に入りにくいものというイメージがあるように思いますが、いかがでしょうか。実際に九谷焼や山中漆器をふだん使いしている人は、多くないと想像します。

そこで、私は考えました。後継者の支援と工芸品の需要を高める後継者育成の環境づくりと、国内だけでなく、海外の若者にも知ってもらい、興味を持ってもらうためのＳＮＳ等での魅力発信が有効ではないかと。

まず、後継者育成の環境づくりについて。

現在、進んでいる中学校部活動地域展開を発展させ、小中学生が放課後、職人の方の所へ行き、伝統工芸を教えてもらう。もちろん強制ではなく、スポーツや音楽、美術など、複数の選択肢の１つとして希望者のみ。伝統工芸を教科書で知る、店頭で見るだけでなく、実際に触れられることが大切だと思います。

そして、伝統的なものから私たち若い世代が得意なアニメのキャラクターやデザインなど自由な発想で作らせてもらう。作った品物を販売できれば、その収益を子供たちの移動費や材料費に充てることができると考えます。子供が作ったものなので安く販売でき、それが購入しやすく、身近な伝統工芸品として、新たな需要を掘り起こす１つになる可能性もありま

す。土日に職場体験的なイベントの開催もありだと思います。

次に、ＳＮＳ等での魅力発信です。インターネットを活用した伝統工芸のＰＲも、私たち小中学生がやってみれば、若い世代ならではの発信ができるとともに、若者の伝統工芸に対する理解や関心が進むと思います。子供たちによる販売体験なども、魅力発信としていいかもしれません。

少子高齢化ということは、子供よりも大人の数が多いということであり、伝統工芸に限らず、スポーツ、文化、芸能・芸術についても、子供たちは楽しく少人数で丁寧に学ぶチャンスが増えると思います。まさにピンチはチャンスです。未来の加賀市のアイデアは、全国にたくさんある伝統工芸の見本になると思います。こういった提案が、加賀市の伝統工芸の後継者不足の解消につながると思います。市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　加賀市の伝統工芸の後継者不足と需要を高める後継者育成の環境づくりについてお答えいたします。

加賀市を代表する伝統的工芸品である山中漆器や九谷焼につきまして、山中漆器は、木地生産量日本一を誇る産地であり、木地引きから蒔絵までの工程を分担し、効率的な生産が行われております。また、九谷焼では、一品一品を異なる作品として仕上げる熟練の生産技法が受け継がれております。

一方、その現場では、生活様式の変化や職人の高齢化、後継者不足により、最盛期に比べて近年の生産量は減少しており、また、ＰＲや流通方法の多様化などから、売り先獲得などの営業の経営の難しさが増していると感じております。

これら伝統工芸品の持続的な成長が可能となるよう、市では新たにこれらの技術を習得しようとする方に対し、習得に係る経費の一部を助成する奨励金制度や、担い手と販売先をつなぐ展示会への出展支援を行うことで、後継者の育成と定着に取り組んでおります。

御提案いただきました放課後活動における職人との交流による新たな産業のきっかけ創出に関しましても、将来の担い手となる小中学生に伝統工芸に興味を持ってもらう大変貴重な機会になると考えております。

また、活動を通じて、まずはその子供たち自身が、伝統的工芸品を好きになり、そして、若い世代の柔軟な発想力や感性により作品を作り発信することで、工芸品産業に新しい武器を与える可能性を感じております。

現在、市においては、子供主体の学びの場を広げるという目的の下、中学生の皆様の地域クラブの部活動など、これからの放課後の在り方、グランドデザインについて議論を進めております。御提案も子供主体の活動の姿の１つとして、十分考えられるものですので、できることを整理し、そのやり方や仕組みを含め、加賀市が誇る山中漆器や九谷焼の振興にもつながる活動の実現可能性について、関係業界団体や地域クラブ、部活動の関係者、保護者の皆様方などと一緒に議論していきたいと考えております。

○議長（久保出柑生君）　大河原すず君。

○大河原すず君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　大河原すず君の質問及び答弁は終わりました。

深田友宏君。

○深田友宏君　片山津中学校３年、深田友宏です。

子供たちが最先端技術に触れ、自由に学べる『居場所』の創設について質問します。

かつて加賀市には、自由にＩＴ技術を学べるコンピュータクラブハウス加賀があり、私自身も小学生の頃に通っていました。そこは単に技術を学ぶだけでなく、学校や学年を越えた仲間と出会える本当に大切な安心できる居場所でした。

その後、この施設は新しくＳＴＥＡＭクラブへと移行しました。私は最初、ＳＴＥＡＭクラブという名前のとおり、地域クラブとして部活に入っていない中高生は、自由に行けなくなってしまったのではないかと大きな不安を感じていました。しかし、詳しく調べてみると、実際には地域クラブとしてＳＴＥＡＭクラブに入っていなくても、小学生から高校生まで誰でも自由に、年間参加費さえ払えば、通うことができる場所として運営されていることを知りました。

そこで、私が感じた大きな課題は、こんなにすばらしい場所なのに、子供たちの間にその事実が正しく伝わっていないということです。私と同じように、部活の人しか行けない、小学生はもう行けないと思い込んでいる人や、そもそもＳＴＥＡＭクラブ自体を知らない人が、今もたくさんいるのではないでしょうか。これでは加賀市の教育の強みを生かし切れておらず、非常にもったいない状況だと感じます。

そこで、市長に質問と要望があります。

このすばらしいＳＴＥＡＭクラブをもっと多くの子供たちに知ってもらい、いつでも自由に通える環境を取り戻すために、市として新しくＰＲをする予定はありますか。ただチラシを配るだけでは、子供たちの心にはなかなか届きません。また、行ったことがない場所に初めて行くのは、誰でも緊張するものです。

そこで私は、ＳＴＥＡＭクラブのスタッフが学校に出向いて、授業の中で機材に触れられる出前体験授業を行うことを提案します。学校の授業で一度でもプログラミングや最先端の技術を体験し、スタッフの方と顔見知りになることができれば、あそこに行けば面白いことがある、自分も行っていいんだと、行くための心理的なハードルが一気に下がると考えます。このように、子供たちに直接情報と安心感を届ける仕組みが必要ではないでしょうか。

前向きな御答弁よろしくお願いします。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　子供たちが最先端技術に触れ、自由に学べる『居場所』の創設についてお答えいたします。

現在のＳＴＥＡＭクラブは、小学生から高校生までを対象に、プログラミングや映像作成、

３Ｄプリンターなどのデジタル機器を活用した創造的な活動を通じて、子供たちが自ら学び、挑戦できる場として運営しております。対象者であれば、年間保険料を御負担いただくことで、どなたでも御利用いただけます。

ＳＴＥＡＭクラブの活動の様子やイベント情報につきましては、市ホームページやインスタグラム等で発信しているところではありますが、議員御指摘のとおり、こうした魅力や活動内容が子供たちに十分伝わっていない面があると認識をしております。今後は、情報発信の充実に加え、子供たちがＳＴＥＡＭクラブをより身近に感じ、気軽に足を運べるよう、効果的な周知方法について工夫を重ねてまいります。

また、御提案いただきました出前体験授業につきましては、子供たちがＳＴＥＡＭクラブを知り、興味を持つきっかけづくりとして有効な取組の一つであると考えており、今年度、ＳＴＥＡＭクラブのスタッフが、各学校を回り、御提案いただいたような体験が企画できることを御案内しております。

今後におきましても、実際に活用する小中学生の皆様の視点や意見も大切にしながら、より多くの子供たちにＳＴＥＡＭクラブの存在を知ってもらえるよう周知に努めるとともに、授業から放課後まで、自分の好き、全力、やってみようという気持ちを育める環境づくりをしっかりと支えてまいりたいと考えております。

○議長（久保出柑生君）　深田友宏君。

○深田友宏君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　深田友宏君の質問及び答弁は終わりました。

髙地　凛君。

○髙地　凛君　山中中学校３年、髙地　凛です。

「加賀未来ＦＭ局」の開設について質問します。

このたび、このような機会を与えていただきありがとうございます。

現在、私は学校の生徒会執行部活動の中で、ラジオ放送を通じて大切なメッセージを送ったり、学校生活における様々な情報やメッセージを発信したりするなどの企画を行っています。放送から得た情報で、生徒の皆さんからお返事や意見をもらえて、耳からの情報や音楽は心を和ませてくれるものであることを実感しています。

さて、東日本大震災のとき、当時の携帯電話の電波が崩壊し、安否確認が取れない悲劇が起こり、その教訓から開発されたのが、個人と個人をつなぐＬＩＮＥというアプリシステムであることは、皆さん御存じかと思います。とても便利で私たちの生活の中に深く根づいています。

しかし、令和６年能登半島地震の際、被災者の方々が最後に頼ったのは、ラジオからの情報であったとお聞きしています。常に音声で情報が流れ、耳からの情報として多くの方々が共有でき、安心につながったそうです。現在も輪島市のまちのラジオが民間で運営されて、復興の大きな力にもなっています。

そこで、加賀市にもぜひラジオ局を開設できないかと考えました。日常の情報発信や誰もが安心して楽しむことのできるコンテンツの１つとして、また、災害時の情報を誰もが安心して共有できる地域の発信源として生かすことができないか、加賀未来ＦＭなんて名前で、いろいろと想像すると夢が広がります。

一方、現実化していくに当たって、課題も多くあります。もし加賀市にラジオ局を開設するとしたら、開設に当たっての行政からの助成や運営面、人材派遣等の協力、またラジオ局となる場所の提供などについて、市の意見や考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　「加賀未来ＦＭ局」の開設についてお答えいたします。

議員御認識のとおり、災害が起きたときには、市民の皆さんの安心につながる正しい情報を伝えることはとても大切ですが、大きな災害では、停電や通信障害で、携帯電話やインターネットが使用できない可能性があります。そのようなときでも、ラジオは多くの人に同じ情報を一度に届けることができるため、とても有効な情報伝達手段の一つです。

現在、輪島市で放送されているまちのラジオは、災害時だけ特別に開設できる国の制度、臨時災害放送局、災害ＦＭと言いますけれども、これを活用しております。このラジオは、避難情報や生活に必要な情報を伝え、地域の人たちを支える大切な役割を果たしています。

一方で、ふだんから放送するラジオ局を新しく開設するためには、災害時だけ使える国の制度は利用できません。放送設備やスタジオの整備、放送の許可、運営する体制など、新たに整える必要があります。

現在、加賀市では、エフエム石川やラジオこまつを通じた情報発信に加え、公式ＬＩＮＥ、防災行政無線、防災メール、市のホームページ、ＳＮＳなど、様々な方法を活用して情報を発信しております。このようにいろいろな手段を組み合わせることで、多くの人へ情報を届けられる体制を整えていることから、現時点では、新たにラジオ局を開設する人に、加賀市が費用の助成や場所の提供、人材の派遣等をして、新しく開設してもらうことは考えておりません。今後も、現在ある情報発信の仕組みをさらに充実させ、災害時にも必要な情報を確実に届けられるよう取り組んでまいります。

今回御提案いただいた加賀未来ＦＭ局の開設は、災害時だけではなく、地域の人と人とをつなぐ夢のあるアイデアだと思います。皆さんのような新しい発想を大切にしながら、これからも安心して暮らせる加賀市を目指して、よりよい情報の伝え方について検討してまいります。

○議長（久保出柑生君）　髙地　凛君。

○髙地　凛君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　髙地　凛君の質問及び答弁は終わりました。

この際、暫時休憩いたします。

再開は午後２時ちょうどを予定しております。

午後１時４５分休憩

午後２時００分再開

○議長（久保出柑生君）　会議を再開し、休憩前の議事を続けます。

北出大翔君。

○北出大翔君　山中中学校３年、北出大翔です。

観光用給水スポットについて質問します。

このたび、このような機会を与えていただき、ありがとうございます。

現在、世界的な暑さで、私たちを取り巻く環境や、それに伴う生活様式が大きく変わろうとしています。身近で言えば、登下校での暑さ対策や、学校行事の体育祭が10月に変更されるなど、私たちのこれまでの季節感すら変えていかなければならないことが多々ありました。

私たちの学校では、給水機が設置され、いつでも冷たく安全な給水ができる環境にあります。大変ありがたく全校生徒が利用しています。

私は最近、日本で有数の観光地である上高地や高山、白川郷辺りでは各所に給水ボックスが設置されていることを知りました。さらに調べると、スイスのような観光大国は、誰もが安心して水が飲める給水場所が市街各地に設置されていて、観光客の評判を呼んでいるそうです。

そこで、私たちが住むこの加賀市にも、観光客のために給水ボックスを設置してはどうでしょうか。観光地だからこそできる観光客へのサービス、または市民の憩いのためにも有効であると考えます。

また、民間団体やＮＰＯ法人などでは、ＳＤＧｓの観点からマイボトル運動と連動させ、給水スポットを紹介していく活動も展開されていて、加賀市においても給水スポットが分かる観光アプリの開発やインスタグラムでの発信が、観光客の心に残り、リピートにつながることも期待できます。ぜひ観光サービスの一端として行政で取り組んでいただきたく、市としての考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　観光用給水スポットについてお答えをいたします。

プラスチックごみの削減を目的としたマイボトルの普及や、夏の厳しい暑さから観光客を守るための取組は、環境、文化、経済への影響に配慮した観光地づくりを進める上で重要な課題の一つであると考えております。

しかしながら、給水ボックスを設置するには幾つかの課題があります。不特定多数の人が口にする水を提供するものであることから、常に清潔で安全な状態を保つ管理が欠かせません。また、電源や給排水設備の確保や、冬季の水道管凍結対策なども必要となります。このように、設置できる場所には条件があり、さらに、維持していくためにも、年間を通した費用が必要となります。

こうしたことから、給水ボックスの設置につきましては、現時点では実施することは難し

いと考えていますが、暑さ対策や観光客の皆様に快適に過ごしていただくための環境整備は、今後の観光を盛り上げる上で重要な視点であると受け止めております。市として、どのようなサービスができるのか、観光に関係する事業者の皆様の御意見も伺いながら、今後の観光施設施策の中でしっかりと検討してまいります。

議員からいただきました、観光客の皆様へのおもてなしと安全の確保という大切な御提案の思いをしっかりと受け止め、引き続き、多くの方に加賀市にお越しいただけるよう、市の魅力を発信してまいります。

○議長（久保出柑生君）　北出大翔君。

○北出大翔君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　北出大翔君の質問及び答弁は終わりました。

銭丸京汰君。

○銭丸京汰君　橋立海青学園８年、銭丸京汰です。山崎颯一郎選手のストレートぐらいすばらしい質問ができるように頑張ります。

室内練習場を作ってほしいについて質問します。

僕たちが住むこの加賀市では、降水量がとても多いです。梅雨や冬などの雨や雪がたくさん降る時期には、部活動が長期間できなくなってしまいます。体育館を借りるにしても、ボールなどを当ててしまい、穴が開いたり、へこんでしまう可能性があるため、学校側にも迷惑がかかってしまいます。

そのため、野球やサッカーなどの練習ができる室内練習場があれば、天候を気にせず１年中練習ができるので、とてもよい環境になると思います。

新しく室内練習場を造る方法もあると思いますが、多くのお金がかかると思います。そこで、閉校した学校の体育館などを室内練習場として利用することができるのではないかと考えました。

もし室内練習場ができれば、スポーツを頑張る子供たちが、もっとよい環境で練習ができるようになり、将来、全国大会やプロで活躍する選手が生まれるかもしれません。

また、加賀市だけでなく、近隣の市や町からも利用する人が増え、スポーツをきっかけに加賀を訪れた人が加賀市の魅力を知ってくれることにもつながると思います。

市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　室内練習場を作ってほしいとの御提案についてお答えをいたします。

議員がおっしゃるとおり、加賀市は雨の多い地域で、気象庁の加賀中津原観測所では、昨年１年間で176日降水が観測されています。およそ１年の半分が雨の日ということになります。このような雨の多い北陸ならではのことわざとして、弁当忘れても傘忘れるなと言われるほどです。

御提案のありました、閉校した学校の体育館などを活用した野球やサッカーなどの室内練

習場としての利用についてですが、現在、閉校した学校の体育館は、教育施設として使ったり、地域の子供会などの団体に御利用いただいたりしているほか、災害時における地域の指定避難所としての役割も担っています。

もともと学校の体育館は、屋内スポーツや学校行事を安全かつ円滑に行うことを目的として造られているため、特殊な床の構造となっており、これを屋外スポーツの練習場にするためには、床の人工芝などへの改修が必要となります。また、照明やガラスの破損対策などが必要な点は、議員御所属の学校と同様であります。一方、一度そのような改修をしてしまうと、先ほどお話ししたような、団体の利用や災害時の生活の場所としての機能に支障を来すおそれがあります。

このため、閉校した学校の体育館を野球やサッカーの練習場へと改修することは現時点では難しいですが、閉校していない学校の体育館を含め、他の団体の利用がない日であれば、施設を傷つけないような練習に団体利用をいただくことは可能ですので、地域の皆様と譲り合って安全に有効活用していただければと思います。

○議長（久保出柑生君）　銭丸京汰君。

○銭丸京汰君　これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　銭丸京汰君の質問及び答弁は終わりました。

五所村メイ君。

○五所村メイ君　山代中学校３年、五所村メイです。

安全な自転車用道路の整備で誰もが安心して通行できる街にしようについて質問します。

2011年、平成23年11月８日、多分７時ぐらい、山代で生まれ、山代育ちで純山代の私が、山代の明るい未来のための質問をします。質問も終盤に入っていますが、もう少しお付き合いください。

最近、自転車の安全確保に関するルールが厳しく適用されるようになりました。その中には、原則として歩道を走ってはいけないというルールも含まれています。

都会などでは、自転車用の通行帯が白線などで分かりやすく整備され、安全に走れる環境が整いつつあります。しかし、現在の加賀市においては、まだ十分に整備が進んでいないように感じられます。

道によっては、ルールに従って車道の左側を走行すると、走っている自動車との距離が非常に近く、例えば、セレモニーホール斎苑かがの前の通りや、山代温泉九谷広場から山代中学校へ向かう道はとても危険に感じます。

そこで、十分な広さがある道路には自転車用の通行帯を整備することができると考えますが、一方で、通行帯を整備することが難しい狭い道路については、時間帯によって自転車や歩行者のみが通行可能となるスクールゾーンのような仕組みを設定したり、自転車注意の看板や目印を設置する対策が有効だと考えます。

このように、道路の広さや状況に合わせた柔軟な対策を行うことで、歩行者にとっても、

自転車にとっても、事故の可能性を格段に減らすことができると考えます。

そこで、今後の加賀市における自転車用道路の整備や、道路の状況に応じた安全対策について当局の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　安全な自転車用道路の整備で誰もが安心して通行できる街にしようとの御提案についてお答えをいたします。

自転車は法律上軽車両であり、原則車道左側を通行しなければなりません。しかしながら、市内の道路は狭い区間が多く、車道左側を通行するには危険を伴う場所が多い状況であります。このため、自転車が安全に通行できる環境づくりは、市が取り組むべき重要な課題であると認識をしております。

市においては、自転車を生かしたまちづくりや健康づくりなどを目的として、平成30年に加賀市自転車のまち推進計画を策定し、地域の拠点を結ぶ自転車ネットワーク路線を定め、自転車通行帯を順次設置しております。

自転車通行帯は、車道の左側路肩に設けられる自転車の通行レーンであり、区画線による通行位置の明確化は、接触事故防止等の安全対策に非常に有効であるため、今後とも、道路工事等に併せて整備を進めていくことを計画しています。

議員御指摘の山代温泉九谷広場から山代中学校へ向かう道路については、車道、路肩ともに十分な幅があるため、道路管理者である石川県に対し、自転車通行帯の設置を要望していきたいと考えております。

一方、セレモニーホール斎苑かが前から山代中学校に向かう道路ですが、歩道がないほうの路肩については、幅が狭く、自転車通行帯の設置が困難であることから、ソフト面での安全対策が必要であるものと考えております。

その取組といたしましては、通学時間帯に限り歩道を特例的に利用できないかについて、関係機関と協議を進めるとともに、通行ルールの周知や看板の設置等に取り組むことにより、自転車利用者の安全確保を図っていきたいと考えております。

また、スクールゾーンのような規制を伴う仕組みの導入については、地域の方々の御理解と御協力が不可欠となることから、まずは地元関係者の御意見をお聞きしながら、丁寧に検討を進めたいと考えております。

今後も、ハード、ソフト両面から交通安全対策を充実させ、中学生の皆様をはじめ、誰もが安心して通行できる自転車利用環境の向上に努めてまいります。

○議長（久保出柑生君）　五所村メイ君。

○五所村メイ君　次に、廃業旅館を活用して誰もが親しめる場所にしようについて質問します。

山代温泉に新しく萬松園あいうえおの杜という誰もが楽しめる施設が完成しました。しかし、その奥にある階段を登った先には、何年も放置されたままになっている２棟の廃業旅館が存在します。この場所は、子供たちが興味本位で立ち入ってしまう可能性があり、安全面

や治安の面からも非常に心配です。

この危険な廃旅館を早期に撤去し、跡地を生かして、子供たちが元気に遊べて、地域住民や私たち学生、そして観光客も気軽に立ち寄ってほっと一息つける公園のような場所やカフェのような憩いの場などをつくることができれば、地域の活性化や新たな多世代交流、観光振興につながると考えます。

そこで、この廃旅館への安全対策や撤去に向けた動き、そして今後の跡地利用の可能性について、当局の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　廃業旅館を活用して誰もが親しめる場所にしようとの御提案についてお答えをいたします。

まず、萬松園あいうえおの杜の奥にある廃業旅館に関する安全対策についてです。

萬松園あいうえおの杜は、子供からお年寄り、そして観光客の皆さんが一緒に楽しめる、山代温泉の新しい観光スポットとして整備した場所であります。

議員が御指摘されたとおり、この施設の奥にある２棟の廃業旅館は、現在、窓ガラスが割れたり、勝手口のドアが壊れたりしています。そのため、子供たちが勝手に入り込んで事故につながる危険があるなど、防災や防犯の面で大きな問題があると、市としても重く受け止めております。

これらの建物は個人の財産であるため、本来は持ち主が責任を持って正しく管理することが原則です。市はこれまでも、持ち主に対してしっかりと管理するように指導するとともに、子供たちが興味本位で立ち入らないように、立入禁止の看板を立てたり、壊れた場所を塞いだりする対策を取ってきました。

今後も、持ち主への指導を続けるとともに、警察や地域の方々と協力してパトロールを強めるなど、安全対策を進めてまいります。

中学生の皆さんも、使われていない建物の中に入ることは不法侵入という法律違反になることをしっかりと理解し、絶対に立ち入らないようにお願いをいたします。

次に、廃業旅館の跡地利用の可能性についてお答えをいたします。

議員から、跡地を公園やカフェのような憩いの場にして、様々な世代の人が交流できる場所にというすてきな御提案をいただきました。

しかしながら、これらの建物は急な斜面に建てられており、もし解体したとしても、安全に使える平らな土地がほとんど残らないという問題があります。さらに、この土地や建物を市が買い取って取り壊すためには巨額の費用がかかります。また、持ち主との話合いにも長い時間がかかることが予想されます。

そのため、現時点で市が買い取ったり解体したりすることは非常に難しいと考えております。現在は、建物を壊してその跡地をどう使うかという方法だけにこだわらず、ほかの市や町のよいアイデアなども参考にしながら、今まさに検討を進めているところであります。

○議長（久保出柑生君）　五所村メイ君。

○五所村メイ君　これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　五所村メイ君の質問及び答弁は終わりました。

町出翔希君。

○町出翔希君　僕は今、監督に、おい、町出、ピッチャーいくぞと言われたときぐらい緊張しています。

橋立海青学園９年、町出翔希です。

加賀温泉駅の近くにスポーツ用品店を誘致してほしいについて質問します。

僕は、加賀ボーイズで野球をやっています。スパイクやグローブのひも、オイルなどは、いつも福井か小松まで行って道具をそろえています。行くときは、野球や学校の終わった後、夕方からしか行けなくて、家に帰ったらとても夜遅くになっているときもあり、親もすごく大変です。

そのため、加賀温泉駅の前に商業施設ができる計画があると聞いて、とてもうれしく思いました。いつ頃完成する予定なのか、また、どのようなお店が入る予定なのか教えてください。

加賀温泉駅は、加賀市の人だけではなく、あわら市や小松市の人たちも利用しやすい場所なので、多くの人たちが訪れてにぎわう商業施設になると思います。

その中に、中学生や高校生が気軽に利用できるスポーツ用品店が入れば、野球だけではなく、サッカーやバスケットボールなど、スポーツを頑張っている子供たちにとって、とても便利になると思います。

また、子供だけではなく大人も一緒に買物や食事を楽しめるようなお店が入ると、家族みんなが利用しやすい商業施設になると思います。

ぜひ、中学生や高校生の意見も取り入れながら、スポーツ用品店や家族みんなが利用しやすいお店を誘致していただきたいと思いますが、市の考えをお聞かせください。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　加賀温泉駅の近くにスポーツ用品店を誘致してほしいとの御提案についてお答えをいたします。

加賀市では、市民の皆さんから寄せられている、市内に魅力的な商業施設が欲しいという声に応えるために、加賀温泉駅南側で、住民の方々だけではなく、観光で訪れる方々にも楽しんでいただける、にぎわいのある場所づくりを市が民間の開発事業者と協力して進めています。

現在、開発事業者からは、土地の所有者や出店する企業との話合いや調整を進めている段階であり、完成する時期についてはまだお示しできないというふうに聞いております。

商業施設に入る店舗や施設の内容については、今後、出店企業が中心となって検討していくことになります。現在の予定では、日常生活に便利な総合スーパーやホームセンター、衣

料品や日用品を扱う店舗のほか、伝統工芸品、家電、家具などを取り扱う施設、観光客にも楽しんでもらえるアウトレット施設、多目的に利用できる公共性の高い施設などを組み合わせた複合型商業施設とビジネスホテルの誘致が計画されております。

市としては、この商業施設が、「もっと住民が幸せな加賀市」を市民の皆さんに感じていただける場所になることが大切だと考えております。特に、部活動やスポーツに一生懸命取り組む中学生や高校生をはじめ、子供から高齢者まで幅広い世代の市民や家族が気軽に利用でき、買物や食事を楽しめる場所になることは、とても意義のあることだと考えております。

そのため、市では、今後、店舗を誘致する際に、今回、議員からもいただいたスポーツ用品店の御提案や、中学生、高校生の皆さん、あるいは家族連れの方々からの御意見や御要望が反映されるよう、開発事業者や出店企業に働きかけてまいります。

これからも、未来を担う若い世代の皆さんの声を大切にしながら、誰もが暮らしやすく活気にあふれる加賀市の実現に向けて取り組んでまいります。

○議長（久保出柑生君）　町出翔希君。

○町出翔希君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　町出翔希君の質問及び答弁は終わりました。

髙﨑克吉君。

○髙﨑克吉君　片山津中学校３年、髙﨑克吉です。

本日最後の質問となります。よろしくお願いします。

若い世代の定住を促進する、加賀市独自の子育て優待制度の創設について質問します。

私は、若者の人口流出を防ぎ、加賀市に子供を増やすための新たな子育て支援について質問します。

今、加賀市では、若い世代の流出が大きな課題です。私たちが将来大人になってもこのまちに住み続けたいと思えるようにするには、今、子育てをしている世代への応援が不可欠です。

そこで私たちは、子育て世代の負担を減らし、市内を元気にする独自の加賀市子育て応援パスポートの創設を提案します。

石川県全体のデジタル・パスポートがありますが、私たちは、スマートシティ加賀ならではの独自の特典をプラスすべきだと考えます。

具体的には、県一律の割引だけでなく、公共施設や加賀温泉郷の温泉を子育て世代は無料で使える、また特別価格で利用できる仕組みです。さらに、ＫＡＧＡ健幸ポイントなどと連携させれば、使うたびに市内で使えるポイントがたまる工夫も可能です。

県の制度を超える、子育てに一番優しいまちをアピールできれば、若い人の流出を食い止めることにつながるはずです。

以上の考えから、市長に質問いたします。

加賀市が誇る温泉や公共施設、デジタル技術をフルに生かした加賀市独自のプラスアルフ

ァの優待制度について、前向きに導入を検討していただけないでしょうか。考えをお聞かせください。

未来の加賀市のため、前向きな御答弁をよろしくお願いします。

○議長（久保出柑生君）　山田市長。

○山田市長　若い世代の定住を促進する、加賀市独自の子育て優待制度の創設についてお答えをいたします。

若い世代の人口流出を防ぎ、将来にわたってこの加賀市に住み続けたいと思えるまちをつくるために、子育て世代をしっかり応援すること、そして、デジタル技術を生かすべきという御意見は、とてもすばらしい視点だというふうに感じております。

本市ではこれまでも、保育料や小中学校の給食費の完全無料化や、18歳までの医療費の無料化、学童クラブの一部費用の補助のほか、加賀体育館などの体育施設では中学生以下は無料とし、また、中谷宇吉郎雪の科学館などの文化施設では高校生以下の入館が無料であるなど、全国でもトップクラスの手厚い支援を行ってきました。

その結果、若い世代の人口流出はありますが、ゼロ歳から４歳までの転入が増加してきており、子育て支援策を進めてきた成果が出ている状況でもあります。

しかし、これらは、お金の負担を減らす取組が中心でした。また、ＫＡＧＡ健幸ポイントアプリは、健康づくりに特化した単独のアプリであることから、日常の暮らしの中で、デジタル技術による便利さやお得感を実感しにくいところがあります。

今回提案していただいた、デジタル技術を使って温泉や公共施設を使いやすくし、加賀市だけの特別な優待制度をつくるというアイデアは、子育て世代を応援するだけではなく、地域のまちやお店も元気にする、大変すばらしい提案です。

その一方で、石川県のデジタル・パスポートに加賀市ならではの特典を加えるとすると、加賀市独自の新しい仕組みを一からつくる必要があることから、特別なシステムを開発したり、それを維持したりするために多額の費用がかかるなど、クリアしなければならない課題もあり、残念ながら、今すぐに実現することは簡単ではありません。

今回の大切な御提案を踏まえて、課題等を整理し、よりよい子育て支援の実現に向けて調査研究を進めてまいります。

○議長（久保出柑生君）　髙﨑克吉君。

○髙﨑克吉君　以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（久保出柑生君）　髙﨑克吉君の質問及び答弁は終わりました。

以上で、中学生議員の加賀市政に対する一般質問は全て終わりました。

以上をもって、本日の議事全部を終了いたしました。

中学生議員の皆さん、本日は大変お疲れさまでした。

私たちが日頃から考えている疑問や意見が、これからの加賀市のまちづくりを動かす新たな一歩になったことを確信しています。

また、山田市長におかれましては、丁寧な御答弁ありがとうございました。

最後に、今回の中学生議会の開催に当たって補佐をしていただいた市議会議員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

中学生議会は、これをもって閉会いたします。

講　評

○中川副議長　以上で中学生議会の議事は全て終了いたしました。

中学生議員の皆様、そして、学校の先生方、関係各位の皆様、本当にありがとうございました。そして、補佐役議員の皆様、本当にありがとうございました。執行部の皆様におかれましても、心より御礼を申し上げます。

ここで、山田市長より講評をいただきたいと存じます。

山田市長、よろしくお願いいたします。

○山田市長　中学生議長の久保出さん、そして中学生議員の皆さん、本日は加賀市の未来について真剣に考え、すばらしい御質問や御提案をいただき、本当にありがとうございました。また、本日のこの会の開催に当たりまして御尽力をいただきました市議会議員の皆様、そして、上にいらっしゃる学校の先生方はじめ関係者の皆様に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

本日の御質問をお聞きして、大変うれしく感じたことがございます。それは、皆さんの提案が、自分のことだけではなく、地域のみんなが幸せになるにはどうしたらいいかと、加賀市をもっと魅力あるまちにするにはどうしたらよいかという視点で考えられていたということであります。新しい遊び場や居場所、室内練習場、伝統工芸、子育て支援、自転車の安全対策、観光、災害時の情報発信、そして加賀市の未来のまちづくりまで、本当に幅広いテーマについて、現地を調べたりアンケートを行ったり、クラスで話し合ったりしながら自分たちの考えをまとめてくださったことに感銘を受けました。

今日の答弁では、すぐできることと今は難しいことの両方をお伝えしました。しかし、難しいということは、皆さんの考えを決して否定するものではございません。むしろ皆さんの柔軟な発想は、私たち大人には思いつかない新しい視点を我々に与えてくれます。だからこそ市では、皆さんからいただいたアイデアを、これからのまちづくりを考える上での大切なヒントとして受け止めてまいります。

私は、市政を進める上で、「もっと住民が幸せな加賀市」をつくることを目標に掲げております。そのためには、行政や、行政というのは政治ですね、市役所でやっていること、行政や議会だけではなく、市民一人一人が自分たちのまちに関心を持ち、こうしたらもっとよくなると考え行動することが何よりも大切であります。本日の皆さんの姿は、まさにその第一歩だというふうに感じております。

これから進学や就職などで市外へ出る人もいるというふうに思います。しかし、いつの日

か、やっぱり加賀市っていいところだな、もう一度戻ってきたいなと思えるようなふるさとを皆さんと一緒につくっていきたいと思っています。

今日の経験が、皆さんにとって加賀市をもっと好きになるきっかけとなり、自分のまちに誇りと愛着を持つことにつながることを心から願っております。皆さんのこれからの挑戦と御活躍を強く強く期待いたしまして、講評といたします。

本日は、皆さん、どうもありがとうございました。

○中川副議長　山田市長、ありがとうございました。

これにて中学生議会を終了いたします。

なお、中学生議員の皆様、そして市長、副市長、教育長、そして関係した議員の皆様におかれましては、この後、記念撮影を行いますので、そのままお待ちください。

本当にありがとうございました。